

41951

教科書文庫

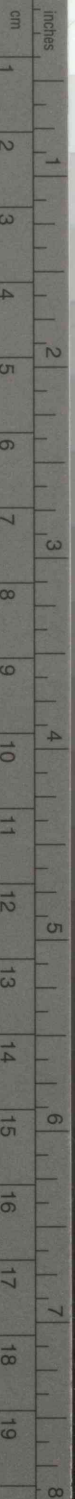
4
820
41-1941
20000 44860

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



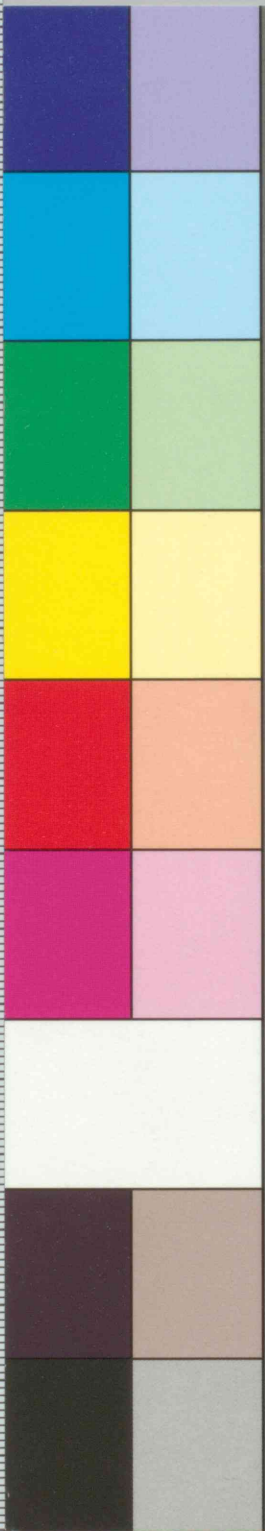
© Kodak, 2007 TM: Kodak



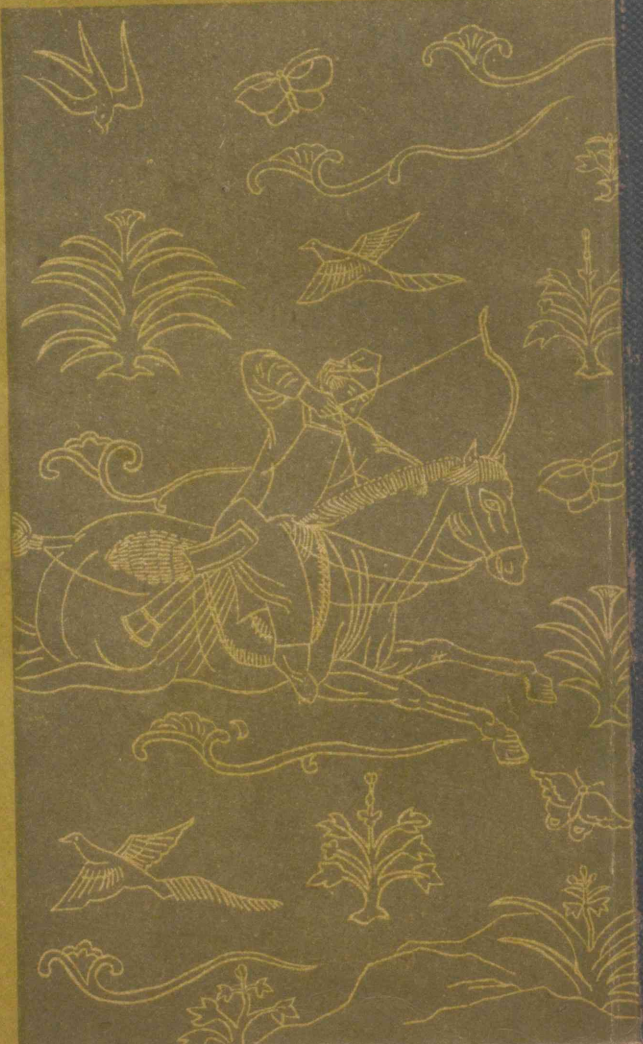
Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



教科書文庫
4
820
41-1941
2000044860



漢文精選階梯

鹽谷溫編

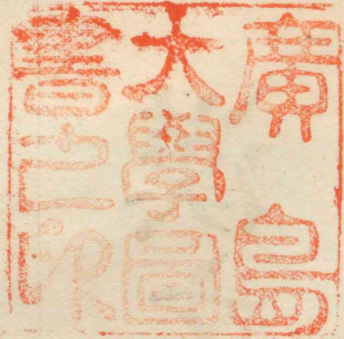
全



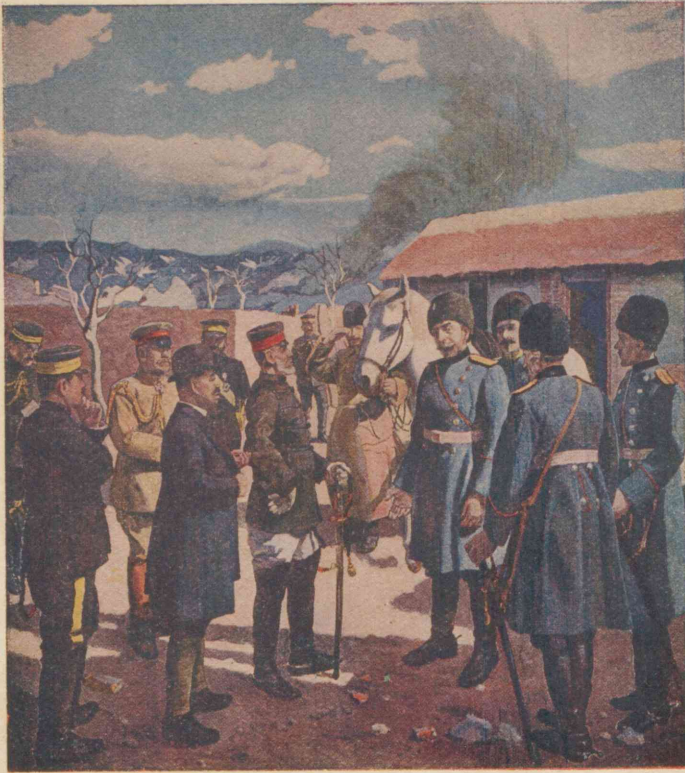
資

教科書文庫
4
820
41-1941
2000044860

375.9
Shi 15



昭和十六年十二月六日
中華學校國語文教科書
文部省檢定濟



日露役旅順開城

漢文精選階梯

文學博士 鹽谷 溫 編

東京 中等學校教科書株式會社

広島大学図書

2000044860



爾靈山險豈難攀
男子功名期克艱
鐵血覆山形改
萬人齊仰爾靈山

大將子爵大迫盛元清筆

辛與馬

漢文精選階梯 目次

- 一 漢文ノ讀法
- 二 漢文ノ精神
- 三 句 例一
- 四 句 例二
- 五 皇 統(訓讀)
- 六 元 寇
- 七 句 例三
- 八 三 景(訓讀)
- 九 德川光圀
- 一〇 林鶴峯練習
- 二 句 例四

中 村

和 善

一 二 三 四 五 六 七 八 一〇 一一 一二 一三

三	黑田考高(訓讀)	中村和	一四
三	岳飛慷慨(練習)	宋史	一五
四	平塚越中	大槻清崇	一六
五	格言		一七
六	句 例五		一七
七	秀忠重信(訓讀)	元田永孚	一八
八	赤心報國	原善	一九
九	草莽臣正之	賴襄	二〇
一〇	不知飯之既焦(練習)	齋藤馨	二一
二	句 例六		二二
三	歷山王	中村正直	二三
三	辰爾奇智	中村和	二三
四	萬惡之原生於弱(練習)	續蒙求	二四

五	箱根温泉		二五
六	句 例七		二五
七	以人為寶(練習)	中村和	二七
八	以三軍之刀為我刀(練習)	大槻清崇	二八
九	句 例八		二九
一〇	立志	角田簡	三一
三	勿求備於一人	皇朝金鑑	三一
三	勸學	陶淵明	三二
三	句 例九		三三
四	寶祚無窮	日本書紀	三四
五	清麻呂忠節	皇朝金鑑	三六
六	格言(練習)		三七
七	孟母斷機	蒙求	三八

三 勸 學

元 偶 成

四 三 年 不 飛 (練習)

四 除 日 講 起

四 函 人 (練習)

四 句 例 十

四 本 多 忠 勝

四 壯 哉 平 八 (練習)

四 忠 教 不 避 (練習)

四 武 將 宜 如 此

四 乃 木 大 將

四 爾 靈 山

四 挽 乃 木 將 軍 (練習)

朱 熹 三九

朱 熹 三九

曾 先 之 四〇

原 善 四一

中 村 和 四二

賴 襄 四四

賴 襄 四四

角 田 簡 四六

中 村 和 四七

土 屋 弘 四八

乃 木 希 典 四九

鹽 谷 時 敏 四九

五 仁 德 天 皇

五 燒 紅 葉 燗 酒

五 阿 倍 仲 麻 呂

五 管 公 忠 愛

五 孝 高 卻 銀 (練習)

五 叔 救 陰 德

五 格 言

五 加 藤 戰 狀

五 將 門 出 將 (練習)

六 元 就 戒 子 (練習)

六 木 村 重 成

六 幸 村 力 戰 (練習)

六 政 宗 遣 使 於 羅 馬

青 山 延 子 五〇

青 山 延 子 五一

菊 池 純 五一

青 山 延 子 五二

角 田 簡 五四

日 記 故 事 五五

土 屋 弘 五七

賴 襄 五九

大 槻 清 崇 六〇

賴 襄 六二

中 村 和 六三

事 實 文 編 六五



空	義家學兵法(練習)	賴	六六
空	八幡公	賴	六七
空	格言		六八
空	義光赴兄急	賴	六八
空	太田道灌	岡松	七〇
充	詠史	大槻清崇	七二
古	鈴木犯樂	土屋弘	七三
七	信綱捕乳雀	鹽谷世弘	七四
七	大猷公英邁	鹽谷世弘	七五
附錄			
部首表			

漢文精選階梯

文學博士 鹽谷 温 編

一 漢文ノ讀法

漢文ハ本來、漢土ノ文章デアル。應神天皇ノ御代ニ、始メテ
 之ヲ我が國ニ傳ヘ、最初ハ字音ノママニ直讀シタガ、後ニハ、
 音ト訓トヲ交ヘ、句讀點ヤ、返リ點送り假名ナドヲ施シテ、倒
 讀スル方法ガ發明セラレ、次第ニ國語デ自由ニ讀ミコナシ、
 又國語ヲモ漢文デ綴ルヤウニナツタ。

漢文ノ讀法

讀法、音トクハフ、ヨ
 ミカダ
 漢土、支那
 應神天皇、第十五代ニ
 アダラセタマフ
 直讀、音讀、又ハ操讀
 トモイフ
 倒讀、下カラ上ニカヘ
 ツテヨムゴト
 音、漢字ノ音ノママノ
 ヨミカダ
 訓、漢字ヲ國語ニアテ
 タヨミカダ

漢文ヲ文語體ニヨツテ、國語讀ミニスルコトヲ訓讀トイヒ、
返リ點送り假名、及ビ單鉤雙鉤ナドヲ併セテ、之ヲ訓點ト名
ツケル。

二 漢文ノ精神

漢文ノ主トスル所ハ、孔子ノ教アル。コノ教ガ我が國ニ受
容サレテカラハ、ヨク惟神ノ道ヲタスケ、國民道德ノ發展ヲ
促シテ、我が國運ヲ盛ニシタ。漢文ヲ讀ム者ハ、ヨクコノ點ニ
留意シ、文字ヤ語句ナドノ解釋ノ外、更ニソノ精神ヲ學ンデ、
實踐躬行ニ務メルコトガ大切デアアル。

孔子、支那ノ大聖人ア
アル

惟神ノ道、神道トモイ
フ

實踐躬行、シツサイニ
自ラフミオコナフコ
ト

三 句例一

(ル)・(ツ)、送り假名

天晴ル。天晴ル。

(。)、句點

日出ツ。日出。

(、)、請點

天晴レ、日出ツ。天晴、日出。

櫻花開ク。櫻花開。

春風暖ナリ。春風暖。

春風暖ニシテ、櫻花開ク。春風暖、櫻花開。

百花爛漫タリ。百花爛漫。

爛漫、花ノ咲キミダレ
ルサマ
ランマン
訓假名、又ハ振
假名

春來。風清。月明。君恩重。一身輕。山高水深。
 草木繁茂。君君臣臣。父子相親。兄弟和。落花紛紛。天
 下太平。猛虎一聲。山月高。我軍進擊。敵兵敗走。品行方
 正學術優等。

四句例二

(焉) 天地位焉。 天地位焉。

(之) (矣) 君臣之分定矣。 君臣之分定矣。

(者) (也) 孝者百行之本也。 孝者百行之本也。

七代七十餘年の帝都として、咲く花のほふが如
 しと誇りし奈良の都も、色移り香失せて年既に久しく、今
 は唯畿内の一都市として僅かに古の名残を留むるのみ。

(尋常小學國語讀本 卷十二 奈良)

年既久矣。 畿内之一都市。

江上之清風。 山間之明月。 德者本也、財者末也。 平重盛
 忠孝兩全之人也。 四時行焉、萬物生焉。 東海之中、君子國
 在焉。 兩軍相擊、勝敗決矣。 誠危急存亡之秋也。 我國開
 闢以來、君臣之分定矣。

君子國、禮儀ノ正シイ
 秋、大切ナトキノ意
 開闢、國ガ立チハジマ
 ル

五 皇 統

連綿、ナガク引キツツ
イテ、絶エナイサマ
タマフ、敬語
寶祚、天子ノ御位

皇統連綿トシテ、一系相承ケタマヒ、寶祚ノ隆ナルコト、天
壤ト無窮ナリ。君嚴ニ臣恭ニシテ、上下和睦シ、國富ミ兵強
クシテ、威德發揚ス。是レ誠ニ我が國體ノ精華ナリ。

皇統連綿、一系相承、寶祚之隆、天壤無窮。君嚴臣
恭、上下和睦、國富兵強、威德發揚。是誠我國體之
精華也。

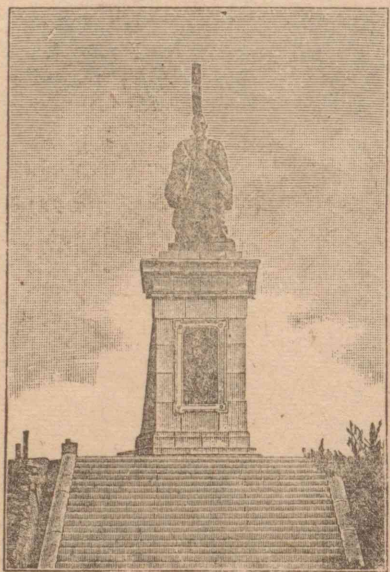
皇統連綿。天壤無窮。國體之精華。

六 元 寇

弘安、後宇多天皇ノ年
號

奮撃、チカラヲフルツ
テ敵ヲウツ

弘安四年七月、元兵十萬、大舉來寇。會大雷雨、風



龜山天皇尊像

浪暴起、船艦多破
壞。我將士因奮擊
虜兵大敗、脫歸者
僅三人云。

大舉來寇。船艦破壞。奮撃—奮戰—奮闘。

七 句例三

(レ)、送り點

書ヲ讀ム。讀書。

(ニ)

馬ニ騎ル。騎馬。

(ト)

兄ト爲リ、弟ト爲ル。爲兄、爲弟。

讀書、(倒讀)

兄ハ書ヲ讀ミ、弟ハ馬ニ騎ル。兄讀書、弟騎馬。

師ニ從ツテ教ヲ受ク。從師受教。

(而)、レカウレテ

學ンデ而シテ之ヲ習フ。學而習之。

(則)、スナハチ

先ンズレバ則チ人ヲ制ス。先則制人。

讀書、(直讀)

讀書——讀書。騎馬——騎馬。好學——好學。

練習 孔子は他人を正す前に先づおのれを正し、近きより遠きに及すを以て其の主義としたり。おのれを修めて人を安んず。とは、彼が簡明に此の意をあらはせる語なり。

(尋常小學國語讀本 卷十一 孔子)

正己。自近及遠。修己安人。

修學。習業。稱快。盡忠報國。在家讀書。臨水釣魚。

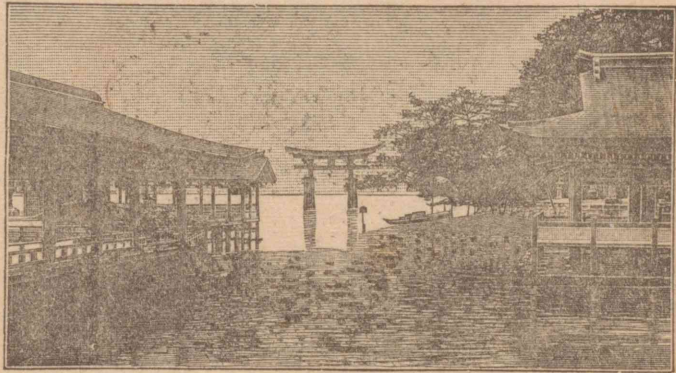
豹死留皮、人死留名。幼而好讀書。温故而知新。戰則勝。

攻則取。

(而)、ヲ讀マナイ例
温、一説アタダム、
本字ハ温

(一)、併列點

奇觀、メヅラレイ風景



三景者、陸之松島・丹之橋立・藝之嚴島是也。嚴島

八三景

三景トハ、陸ノ松島・丹ノ橋立・藝ノ
嚴島是ナリ。嚴島ハ周廻七里。彌山
高ク聳エ、其ノ麓ニ神祠在リ。海岸
一帯ニハ、白沙遠ク連ナリ。潮満ツ
社レバ、則チ殿影波ニ隨ツテ動揺ス。

眞ニ奇觀ナリ。

周廻七里。彌山高聳、其麓神祠在焉。海岸一帯、白
沙遠連、潮満則殿影隨、波動揺、眞奇觀矣。
白沙青松。金殿玉樓。水光山色。

九 德川光圀 中村和

中村和、近江水口藩ノ
人、栗園ト號ス、明
治十四年卒
賴房、家康ノ第十一子
水戸ニ封セラレタ
曰、イハツ
○……○、單鉤
(字)、カ・ヤ
對、コダフ、オコダヘ
スルノ意
(耳)、ノミ



德川光圀圖

德川光圀、賴房子也。賴房
嘗問曰、「我若臨陣被創、則
汝能扶持而退乎。」對曰、「兒
進斬敵耳。」時年七歲矣。

國一國一園 對一答

一〇 林 鵝峯

原

善

原善、江戸ノ人、念齋ト號ス、文化三年卒
林鵝峯、名ハ怒、羅山ノ第三子デア
兵、兵器・武器

林鵝峯、爲人剛毅好學、博覽多識、嘗曰、武人執兵而戰、效死建功、學者讀書立言、斃而後已、固其本懷也。

池田光政、一日外出、庖人進飯、啜羹、齧沙、憤然變色、庖人曰、風沙飛入口耳、光政乃解。
(鹽谷世弘)

池田光政、備前岡山ノ藩主
庖人、音ハウジン、料理ヲツカサドルヒト
鹽谷世弘、江戸ノ人、宕陰ト號ス、慶應三年卒

一一 句例四

(有、無)

利アリ、害ナシ。有利、無害。

(可)

風光愛ス可シ。風光可愛。

(以、見、被)

功ヲ以テ賞セラル。以功見賞。

(不)

玉琢カザレバ器ヲ成サズ。玉不琢不成器。

(何)

何事カ成ラザラン。何事不成。

(誰)

誰カ能ク過ナカラシ。誰能無過。

(彼)

有力如虎。我神州以武建國。奮欲從軍。可言而

(不可)
(不能)

(易)

(難)

不可行也。信而不疑。戰敗而被擒。城堅遂不能拔。誰敢當之。天誅乘時何賊不斃。人不學不知道。少年易老學難成。一寸光陰不可輕。死生有命富貴在天。陽氣發處金石亦透。精神一到何事不成。

二三 黑田孝高

中村 和

黑田孝高、豐臣秀吉ニ信任セラレ、如水ト號ス

黑田孝高、勇ニシテ智有リ。豐太閤嘗テ問ウテ曰ク、天下何物カ最モ多キト。孝高對ヘテ曰ク、人ナリト。又曰ク、何物カ最モ少キト。對ヘテ曰ク、人ナリト。太閤善シト稱ス。

黑田孝高、勇而有智。豐太閤嘗問曰、天下何物最多。孝高對曰、人也。又曰、何物最少。對曰、人也。太閤稱善。

一三 岳飛慷慨

宋 史

宋、音ソウ、支那ノ國號
岳飛、宋代ノ忠臣
(不……則)

漢、支那ノ國號、前後ニワカレ
鐵、音アツ、ヤジリ

宋岳飛、慷慨大節、精忠無比。或問、天下何時太平。飛曰、文臣不愛錢、武臣不惜死、則天下太平矣。
漢李廣嘗出獵、草中見石、以為虎而射之、中石沒鏃、視之、石也。因復更射之、終不能入石矣。(蒙求)

大槻清崇、仙臺ノ人、
磐溪ト號ス、明治十
一年卒

東照公、徳川家康ノ廟
號

聘、音ヘイ、メレカカ
ヘル
關原役、慶長五年、石
田三成ノ軍ガ徳川家
康ニヤアレタイクサ

一四 平塚越中

大槻清崇

平塚越中、剛勇士也。東照公、百方招之、不肯。後石
田三成、厚禮聘之。公聞而不能平。關原役、越中見
擒。公怒叱之。越中張目罵曰、咄、人誰無死。戰敗爲
虜、武夫之常耳。欲斬則斬之。吾頭可斷、而吾口不
可塞也。公壯之、乃解縛放還。

見擒。欲斬則斬之。戰敗爲虜。武夫之常耳。吾頭可斷
而吾口不可塞也。

一五 格言

子曰、智者不惑、仁者不憂、勇者不懼。〔論語〕
子曰、三軍可奪帥也、匹夫不可奪志也。〔論語〕
子張曰、士見危致命、見得思義。〔論語〕

一六 句例五

漢文ヲ學ブ。學ニ漢文。
中學ニ進ム。進ニ中學。

（三）一、送り點。

子、先生ノ意、弟子ヨ
リ孔子ヲサス

(ヲ)(ニ)

帷幄之中、本營ノ中

元田永孚、熊本ノ人、東野ト號ス、明治二十四年卒

秀忠、徳川第二代將軍放鷹、タカガリ

中學ニ進ミ、漢文ヲ學ブ。進ニ中學、學ニ漢文。

漢文ヲ講習ス。講習漢文。

業ヲ中學ニ受ク。受業中學。

帶長刀。跨肥馬。登高樓賞明月。修養精神。盡

忠皇室。垂名竹帛。運籌帷幄之中、決勝千里之外。無外

患則必有内憂。

一七 秀忠重信

元田永孚

徳川秀忠、平生最モ信ヲ重ンズ。一タビ令ヲ出ダセバ則チ曾テ自ラ違ハズ。出デテ放鷹スル毎ニ期已ニ至レバ、膳ニ

時辰、シカン、トキ

當ルト雖モ、直チニ箸ヲ投ジテ起ツ。近臣之ヲ見、其ノ食ノ終ルヲ待ツテ、乃チ時辰ヲ報ゼリ。

徳川秀忠、平生最重信。一出令則不會自違。每出放鷹、期已至、雖當膳、直投箸而起。近臣見之、待其食終、乃報時辰。

一八 赤心報國

原

善



筆原兵山平 淺見綱齋、少壯好武事、騎馬擊劍。平生帶一長刀。方

鐔大三寸許、刻赤心報國之四字。

淺見綱齋、名ハ安正、山崎關齋ノ高弟デア

鐔、音タン、刀ノツバ

賴襄、安藝ノ人、山陽ト號ス、天保三年卒

高山正之、寛政三奇人ノ一人

平安、京都ノコト

草莽臣、野ニ在ルヲ草莽ノ臣トイフ、人民ノ意

一九 草莽臣正之

賴

襄

高山正之、稱彦九郎。爲人白晳精悍、眼光射人、聲如鐘。慷慨有氣節。少入平安、至三條橋東、問皇居何方。人指示之。即坐地拜跪曰、草莽臣正之。行路之人、聚觀怪笑、不顧也。又嘗游京郊、過足利尊氏墓、數其罪惡、大罵、鞭之三百。

草莽臣。白晳精悍。眼光射人。慷慨有氣節。

見一視一觀。數（音スウ…カズ、セム。音ヤク…シバシバ。）

齋藤馨、仙臺ノ人、竹堂ト號ス、嘉永五年卒

蒲生君平、寛政三奇人ノ一人、名ハ秀實

勃勃、怒ルコト

晉、支那ノ國號
刺史、音シシ、州ノ長官
中原、カミガタ

二〇 不知飯之既焦

齋

藤

馨

蒲生君平之在江戸也、貧甚、有一僧往訪焉。君平倚柱有憂色。僧見問之曰、終日不食、故已。僧爲走買米來、以炊之、且論外虜事。君平就鍋蓋上、指畫其形勢、談勃勃不已。而不知飯之既焦也。

畫（音ゲワワ 繪畫。音クワクワ 指畫。）

練習

晉陶侃爲廣州刺史、在州無事、則朝運百甕齋外、暮運齋內。人問其故、答曰、吾方致力中原、徒爾游逸、恐不堪事。（小學）

(於) (于) (ニ) (ヨリ)

二 句例六

學ニ志ス。志ニ於學。

書ヲ樓上ニ讀ム。讀書於樓上。

兄弟ノ争ハ、必ズ欲ヨリ起ル。兄弟之爭、必起於欲。

父母ノ恩ハ、山ヨリ高ク、海ヨリ深シ。

父母之恩、高於山、深於海。

練習 源義家、學兵法於大江匡房。良藥、苦於口、利於病。

入于耳、而出于口。人情薄於紙。國安于磐石。青出於藍、而青於藍。

源義家、賴義ノ長子、
八幡太郎ト稱ス。
大江匡房、後三條・白
河・堀河三朝ノ帝師
トナツタ學者

二 歷山王

中村正直

歷山王、**絕**漢、伐**彼**斯。上下苦渴。有卒、**掬**水、進王。王

覆之於地、曰、吾何**忍**獨飲。一軍

感激、遂成**大**功。

絕漢。苦渴。掬水。覆之於地。何



歷山大王

忍獨飲。

二 辰爾奇智

中村和

辰爾百濟人。敏達天皇時、高麗上表、用烏羽。羽黑。

敏達天皇、第三十代ニ
アタラセタマフ
高麗、高句麗ヲサス

中村正直、東京ノ人、
敬字ト號ス、文學博
士、明治十一年卒

歷山王、マケドニア王
ダリシヤ・ベルシヤ、
エジプト等ヲ征服シ
テ、大帝國ヲタテタ
漢、沙漠

於墨^{ヨリ}字跡不可^{カラ}別^ツ。辰爾乃取其羽^{ツテ}蒸^レ之^ヲ於飯甑^{ノウ}中^ニ以帛^ヲ印^ス之^ヲ文字盡見始得讀焉。帝大嗟異^{シタマヘリ}之^ヲ。

羽黑於墨^ニ冰水爲^{シテ}之^ヲ而寒^ニ於水^ニ。

二四 萬惡之原生於弱

續 蒙 求

呂祖謙、宋ノ大儒、朱熹ト同時ノ人

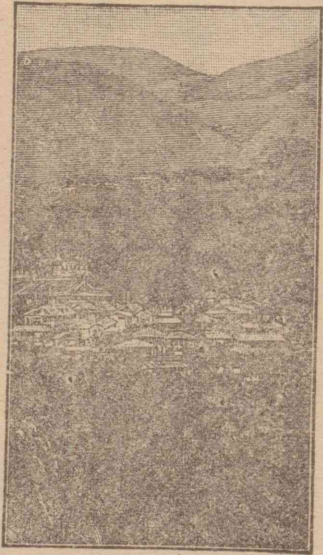
宋呂祖謙嘗有言弱者天下之大害學者之大患大抵爲善主於剛萬惡之原生於弱

善—惡。 □—弱。 □—害。 本—□。 剛—□。

古學者爲己欲得之於己今之學者爲人欲被知於人也。
(近思錄)

得之於己自分ノモノニスル

二五 箱根温泉



箱根温泉

箱根山水秀麗富溫泉往往出於溪谷間沸騰熱於湯以鐵管引之邸館

盛夏之候游人殊多。

二六 句例七

箱根、神奈川県足柄下郡ニ在ル有名ノ温泉場

(與)

人ト苦樂ヲ同ジウス。與レ人同苦樂。

(雖)

大敵ト雖モ怖レズ。雖ニ大敵ニ怖レズ。

(為)

士ハ己ヲ知ルモノノ爲ニ死ス。士爲レ知己者死。

(所)

君子ハ爭フ所ナシ。君子無所爭。

(爲...所)

日月ハ浮雲ノ蔽フ所トナル。日月爲レ浮雲所蔽。

(所以)

忠ハ君ニ事フル所以ナリ。忠者所以事於君也。

■

與朋友交。爲天下除害。雖不中不遠矣。富與貴

是人之所欲也。先則制人後則爲人所制。師者所以傳道也。

二七 以人爲寶

中村和

歴數、一ツ一ツカブヘ
ル

白旄、音ハクバウ、大
將ノサレツバタ

東照公一日、與豐太閤語。太閤歴數其實器、曰、凡天下珍器、我皆藏之。不知子所寶何物。公答以無有。太閤問之不已。公曰、僕有士五百人。白旄所指、雖水火不避。所寶是已。太閤默然有愧色。

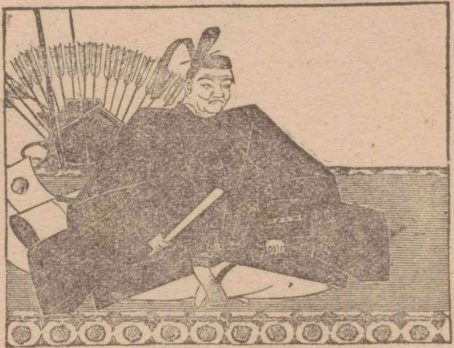
歴一曆。默一點。愧一塊。已(音シ)一已(音キ)一已(音イ)

■

司馬光幼與群兒戲。一兒墮大水甕中、已沒。群兒驚走、不能救。光取石破甕。兒得出。(純正蒙求)

正宗兼光、名刀ノ名

三軍、諸侯ノ率キル軍
隊



池田光政

二八 以三軍之刀爲我刀 大槻清崇

池田光政爲人英明嘗曰正宗兼光其鋒雖利果爲何用爲主將者唯以三軍之刀爲我刀則所向無敵其鋒誰當苟賴一刀論其利鈍非主將所恥乎

果爲何用不爲用

非主將所恥乎主將所恥也

板倉重矩 徳川幕府ノ
重臣
虚引、カラビキスルコ
ト

(當) マサニ...ニレ
載、歳ニ同シ

(須) スベカラク...
ベレ

板倉重矩有寶弓焉常置之座右左右伺重矩出偷張虚引之折大憂恐以俟罪重矩還乃召見曰夫弓所以護身也今汝不試則臨有事而折其患不可計也折于無事之日是乃予之幸也 (皇朝金鑑)

二九 句例八

當ニ芳名ヲ千載ニ傳フベシ

當ニ傳ニ芳名於千載

須ラク第一等ノ人トナルヲ期スベシ

須期爲第一等人

元 以三軍之刀爲我刀 元 句例八

(宜)、ヨロシク…
(使) (令)、ヲレテ…
…レム

宜シク身ヲ修ムルヲ以テ本トナスベシ。
宜ニ以テ修身爲本。

生徒ヲシテ漢文ヲ學バシム。

使生徒學漢文。



及時當勉勵。學生不當中道而廢學也。須盡忠皇
室。病癒多志慎。須常思病苦時。宜自重。不宜自輕。宜進
而進。宜退而退。良將也。令壯士挑戰。勿使敵登天王山。
後醍醐天皇在笠置山。使中納言藤原藤房往召楠木正成。正
成即決意赴之。從藤房詣行在。(頼義)

角田簡、豊後ノ人、安
政二年卒

伊藤仁齋、名ハ維楨、
京都ノ人、徳川時代
ノ大儒

新井白石、名ハ君美、
江戸ノ人、六代將軍
家宣ニ用ヒラレタ
封侯、大名トナルコト

三〇 立志

角田簡



朱子書

伊藤仁齋戒子弟曰、汝等立志、
須期爲第一等人。

新井白石爲兒嬉戲、好書天下
一三字。常曰、大丈夫生不得封

侯、死當爲閻羅。

戒一戎。第一第。齋一齊。侯一侯。

三一 勿求備於一人

皇朝金鑑

東照公嘗言用人宜取其長譬之耳目鼻口各有所司以濟其用鵜入水以得魚鷹搏空以得禽人各有所長勿求備於一人焉。

一長一短。一得一失。一利一害。一進一退。

三三 勸學

陶淵明

陶淵明、支那ノ東晉ノ人、後、名ヲ潛ト改メタ
 盛年、少年

盛年不重來。 一日難再晨。
 及時當勉勵。 歲月不待人。

勸—勸。 難—艱。 勉—挽。 勵—礪。

三三 句例九

イマダカツテ見ザル(ノ)書ヲ讀ム。

讀未會見之書。

マサニ汽船ニ駕シテ歐洲ニ游バントス。

將駕汽船游歐洲。

ナホ快刀ヲ揮ツテ亂麻ヲ斷ツガゴトシ。

猶揮快刀斷亂麻。

ナンゾ漢文ヲ善クスルモノヲ以テ從ヘザル。

盍以善漢文者從。

(未)、イマダ…ス
 (ザル)
 …中…上、送り點

(將)、マサニ…ス

(猶)、ナホ…ゴトシ

(盍) (何不)、ナンゾ
 ……ザル
 (乙…申)、送り點

練習 孔子かつて自らいはく、發憤しては食を忘れ、樂し
 んではうれひを忘れ、老の將に至らんとするを知らずと。
 其の身を忘れ、よはひを忘れて、人生の爲に盡したる大聖
 の面目、よく此の語にあらはれたりといふべし。

(尋常小學國語讀本 卷十一 孔子)

發憤忘食、樂以忘憂、不知老之將至。

未遂平生之志。盍祈吾公天下。猶登高必自卑。歷未曾

到之山水。猶去虎口歸慈母。

三四 寶祚無窮

日本書紀

葦原五百秋之瑞穗國
 吾が國ノ美稱
 寶祚、天皇ノ御位

天照大神は、いよ／＼瓊瓊杵尊をおくだしにならうとし
 て、尊に向ひ、この國は、わが子孫の王たるべき地なり。汝皇
 孫ゆきて治めよ。皇位の盛なること、天地と共にきはまり
 なかるべし。とおほせになつた。萬世一系の天皇をいただ
 いて、天地と共にいつの世までも動くことのないわが國
 體の基は、實にこの時に定まつたのである。(尋常小學國史上卷)
 天照大神、賜皇孫天津彥彥火瓊瓊杵尊三種神
 器、因勅曰、視此鏡、猶視吾葦原千五百秋之瑞穗
 國、是吾子孫可王之地也。宜爾皇孫就而治焉。行
 矣。寶祚之隆、當與天壤無窮者矣。

三五 清麻呂忠節

皇朝金鑑

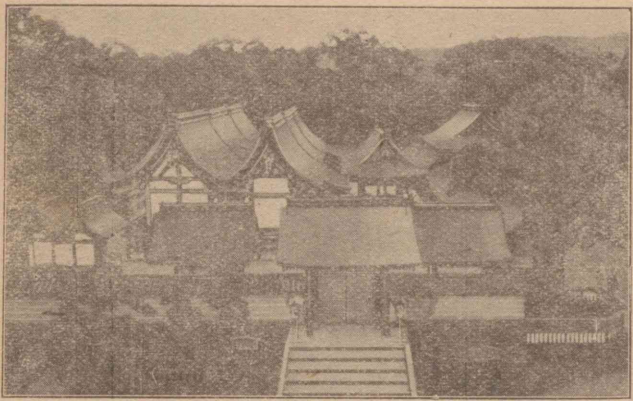
孝謙天皇、第四十六代
ニアタラセタマフ

不軌、ムホン

宇佐八幡宮、大分縣宇
佐町ニ在ル

（…）、雙鉤

（未之有）、イマダ（コ
レアラズ



宇佐八幡宮

孝謙天皇朝、道鏡謀不軌。帝令下和氣清麻呂詣宇佐奉幣八幡宮。清麻呂歸復命曰。臣親受神勅云。我國家開闢以來、君臣分定矣。以臣爲君、未之有也。天日嗣必立。

皇緒、皇統ニ同ジイ
覬覦、音キユ、ウカガ
フ

皇緒而道鏡何者、敢覬覦神器。大逆無道、宜早翦除焉。道鏡大怒、流清麻呂於大隅。

不軌。奉幣。翦除。覬覦神器。大逆無道。

以臣爲君、未之有也。天日嗣必立皇緒。

三六 格言

士當先天下之憂而憂、後天下之樂而樂。而樂（小學）

勿以惡小而爲之、勿以善小而不爲。（小學）

司馬溫公嘗曰。吾無過人者。但平生所爲、未嘗有不可（小學）

司馬溫公、宋ノ人、名
ハ光、字ハ君實

對人言者耳。(小學)

劉安世見溫公問正心修身之要。公曰：「其誠乎？」安世問行之何先。公曰：「自不妄語始。」(小學)

三七 孟母斷機

蒙

求

孟子既長，出就外師。及學而歸，母問學所至。孟子曰：「如舊。」母以刀斷機上織，曰：「汝中道廢學，猶吾斷此織也。」孟子懼，旦夕勤學不息，遂成大賢。

且一旦。師(帥將帥)。廢(廢物)。廢(廢疾)。長(ナガシ、長短。オトナ、長幼。カシラ、君長。)

朱熹、世ニ朱子トイハレル、宋ノ大儒

三八 勸學

朱

熹



勿謂今日不學，而有來日。勿謂今年不學，而有來年。日月逝矣，歲不我延。嗚呼老矣，是誰之愆。

三九 偶成

朱

熹

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢。階前梧葉已秋聲。

曾先之、元ノ人、字ハ從野、十八史略ヲ著シタ

四〇 三年不飛

曾先之

楚、支那ノ周代ノ國名

阜、岡

霸、ハタガシラ

楚莊王即位三年、不出令。日夜爲樂、令國中敢諫者死。伍舉曰、有鳥在阜、三年不飛、不鳴、是何鳥也。王曰、三年不飛、飛將衝天。三年不鳴、鳴將驚人。乃改心、明日聽政。國人大悅、遂霸諸侯。

衆人居富多志、貧須節儉而無奢侈。歲長多忘、父母須終身思慕、病癒多忘慎。須常思病苦時、凡自修者、當以忘初爲誠。(慎思錄)

管得庵、名ハ玄侗、藤原屋高弟デアツ
林羅山、名ハ信勝、徳川氏ニ仕ヘテ儒官トナツタ
通鑑綱目、五十九卷、支那ノ歴史、朱子ノ編纂ニカカル

四一 除日講起

原善



林羅山

歲暮、管得庵謂林羅山曰、余未讀通鑑綱目、請先生以明春爲余講之。羅山曰、子心誠求之、何

待來年、即以除日講起。

管管。綱綱。除徐。待侍。
除日除夜。歲暮歲末。

函人、具足師

四三 函人

中村 和

某侯令函人作鐵甲。既成。欲試之。函人曰：「臣能以身當之。」乃擐其甲而立。侯命善射者以強弓勁矢利鏃射之。中胸鏗然。矢躍而不入。侯曰：「善。」吾既試其前矣。未知其後何如。將試其背。函人釋甲而跪曰：「臣未慣作怯者甲。請辭。」侯曰：「吾過矣。賞之以金。」

練習 酒井忠勝、好讀書。每夕、使儒臣侍講。限以乙夜。雖公事多端、未嘗廢懈。語人曰：「坐一室之中、而知萬里之外、生千載之下、而知百世之上、何樂如焉。」（鹽谷世弘）

酒井忠勝、徳川家光ニ仕ヘテ老中トナツタ乙夜、今ノ午後十時頃

四三 句例十

(何…也)、ナンゾ…ヤ
 (安…哉)、イツクンゾ…ヤ
 (豈…乎)、アニ…ヤ
 (況…乎)、イハンヤ…ヤ
 (嗚呼…哉)、アア…カナ

ナンゾソノ盛ナルヤ。何其盛也。
 イツクンゾ用フルニ足ランヤ。安足用哉。
 アニ報ヲ望マンヤ。豈望報乎。
 イハンヤ人ニ於テヲヤ。況於人乎。
 アア、壯ナルカナ。嗚呼、壯哉。

練習 何其德之衰也。嗟呼、燕雀安知鴻鵠之志哉。吾豈好爭哉。公侯將相、寧有種乎。禽獸且知恩、況於人乎。死馬且購之、況於生者乎。嗚呼、衰哉。

四四 本多忠勝

賴

裏

本多忠勝、徳川氏ノ功臣、四天王ノ一人、小字、オサナ名、鳥屋、愛知縣ニ在ル

本多忠勝、小字平八郎。年十四、從叔父忠真、攻鳥屋。忠真蹤斃一人、顧平八、取其首。答曰、孺子寧欲因人成功哉。自斃一人、馘之。

四五 壯哉平八

賴

裏

長湫、愛知縣愛知郡ニ在リ、天正十二年、徳川家康ガ豊臣秀吉ヲ此ノ地ニ破ツタ。

忠勝善用槍。所愛一槍、名曰截蜻蛉。長湫役、兩軍相距數百步、並隊而馳。忠勝戴鹿角胃、提截蜻蛉、

下鞍飲馬於河。豐太閣望見曰、嗚呼、壯哉、平八。以



本多忠勝

我三萬、擊彼五百、猶石壓卵。粉碎、不回踵。而從容飲馬、以示餘暇。何其壯也。歎嗟久之。

寧欲因人成功乎。猶石壓卵。不回踵。

土屋弘、鳳洲ト號ス、大正十五年卒

不回踵、東ノマライ
不
飲
ミツカヒ

練書 青砥藤綱嘗夜行、遺十錢、水中乃買炬、照水撈之。炬直五十錢。或曰、得不償失。藤綱曰、五十錢、吾失人得十錢、誰得之者。我取六十錢、以益於世。不亦大得乎。(土屋弘)

大久保忠教、通稱ヲ彦左衛門トイフ、剛直ヲ以テ名ガアル

四六 忠教不避

角田 簡

宇治献茶於幕府、路上避人例也。大久保忠教遇之途、故不避。吏呵之、忠教爲不知曰、汝等何爲者。曰、此是官茶、當避之。忠教曰、茶豈貴於人哉、況於我是官人乎、宜避我矣。

豈貴於人哉。況於我是官人乎。宜避我矣。

塙保己一、盲人ノ大學者、和學講談所ノ總裁トナツタ。重野安綱、薩摩ノ人、成齋ト號ス。

練習 塙保己一、嘗爲門人、講源氏物語。方暑夜、風滅燭、衆曰、請且停講、燭滅矣。保己一笑曰、何有眼者之不便也。(重野安綱)

四七 武將宜如此

中村 和

伊達政宗、仙臺藩ノ始祖



伊達政宗

伊達政宗、幼名梵天。生甫五歲、嘗出游佛寺、見不動像、指問近臣曰、此何者。何其顏貌之猛也。對曰、不動明王。其貌雖猛、其心則慈悲濟衆。梵天曰、武將宜如此。

旅順、明治三十八年一月一日ニ開城シタ
二子、勝典・保典、共ニ戦死シタ

四八 乃木大將

土屋 弘

旅順既降。或訪乃木大將賀戰捷。且弔其二子。大

將泣然曰。七月

以來。我喪幾萬

乃木大將

愛兒矣。如吾二

子。守平生訓言。



耳。何足深悲哉。嗚呼。此一語。可以泣神人矣。

訪問。捷□。□愛。□訓。呼□。□神。

四九 爾靈山

乃木希典

爾靈山險豈難攀

男子功名期克艱

鐵血覆山山形改

萬人齊仰爾靈山

五〇 挽乃木將軍

鹽谷時敏

將軍忠義貫心肝

生不愛錢死亦安

萬古爾靈山上月

清光凜凜逼人寒

法庫門營中作

乃木希典

東西南北幾山河。春夏秋冬月又花。征戰歲餘人馬老。

壯心尚是不思家。

爾靈山、二〇三高地、
旅順背面ノ險要、我
軍ノ旅順ヲ陥レタ
ハ、二〇三高地ヲ占
領シタコトニ因ル

鹽谷時敏、青山ト號
ス、大正十四年卒
挽、音バン、トムラフ

通、セマル、入ヲ變フ

法庫門、滿洲帝國奉天
省ニ在ル

青山延子、水戸ノ人、
拙齋ト號ス、天保十
四年卒
仁徳天皇、第十六代ニ
アタラセタマフ
難波、今ノ大阪市

聖、音アク、シツクヒ
ノコト
以爲、オモヘラク

暴露、音バクロ、アマ
ザラレトナリ

五一 仁徳天皇

青山延子

仁徳天皇即位、都攝津難波。謂之高津宮。宮室不
聖。務從節儉。一日、帝登臺遠望。炊煙不起。以爲百
姓窮乏。詔除課役。三年、宮垣頽敗。無所營作。其後、
帝復登臺遠望。見炊煙盛起。謂皇太后曰。朕既富矣。
復何憂乎。后曰。今宮室朽壞。不免暴露。何謂富乎。
帝曰。君以民爲本。民富則朕富也。未有民富而君
貧者。今炊煙盛起。是民富也。朕無憂矣。

高倉天皇、第八十代ニ
アタラセタマフ
仕丁、禁中ノ雜役ニ服
スルコモノ

叩頭、頭ヲ地ニツケテ
拜スルコト

唐詩、白樂天ノ詩、林
間煖酒燒紅葉、石
上題詩掃綠苔

菊池純、紀伊ノ人、三
溪ト號ス、明治二十
四年卒

五二 燒紅葉煖酒

青山延子

高倉天皇幼時、有獻楓樹者。帝極愛之。命藤原信
成守之。一日、仕丁不知之。翦枝爲薪。以煖酒。信成
見大驚。收仕丁將寘之罪。具奏其狀。叩頭請罪。天
皇從容曰。唐詩有云。林間煖酒燒紅葉。誰教仕丁
作此風流。無復所問。

五三 阿倍仲麻呂

菊池純

阿倍仲麻呂、留學生トナリ、唐ニ仕ヘテ、名ヲ朝衡ト改メタ玄宗、唐ノ皇帝

和歌、「天の原ふりさけ見ればかすがなる、三笠の山に出でし月かも」絶唱、スグレタ詩歌

阿倍仲麻呂性聰敏、好讀書。年十六、選爲遣唐留學生。玄宗愛其才、而厚遇之。在唐五十餘年。身雖榮貴、思歸不已。嘗望月爲和歌。後世傳爲絶唱。當時、我邦才學之士甚多。而仲麻呂最擅名海外云。

五 菅公忠愛

青山延子

菅原道真是海を渡つてはるばる筑前に下つたが、その後も門を堅く閉ざして一室にきんしんし、かた時も醍醐天皇の御事を忘れ申すことはなかつた。いつのまにか春が去つて夏もすぎ、はや九月十日となつた。ちやうど去年

の今日今夜こそ宮中の御宴の席にはべり、詩をさし上げて天皇の御心にかなひ、御衣をいたゞいた日であることを思ひ出しては、今更のやうに、君恩のかたじけなさに感じ入り、恩賜の御衣をさゞげて、涙ながらにあつく御禮を申しあげ、詩を作つてその真心を述べたのであつた。

(尋常小學國史上卷)

五朝、清和、陽成、光孝、宇多、醍醐天皇ヲサシタテマツル
大宰府、府址ハ福岡縣筑紫郡ニ在ル



菅原道真

菅原道真歴事五朝爲宇多天皇所親任、後以讒貶爲太宰權帥。道真在

自遣、ウサヲハラス
無聊、ヒマヲコマル

重陽、節句ノ名、九月
九日ニアタル

清涼、清涼殿ノコト

配所閉門不出。託文墨自遣。雖謫居無聊、未嘗忘

忠愛之意。重陽後一日、賦詩曰、

去年今夜侍清涼、秋思詩篇獨斷腸。

恩賜御衣今在此、捧持每日拜餘香。

聞者莫不感歎。

文墨 || 文筆。自遣 || 消遣。忠愛 || 忠君愛國。

五五 孝高御銀

角田 簡

黑田孝高家頗富、而自奉甚儉。日根野備中奉使

盤費、旅費ノコト

棘蠶魚、音キヨクレフ
ギヨ、鯛

赴朝鮮。盤費空乏、假銀百枚于孝高。已歸、往而謝

焉。偶有饋棘蠶魚者。孝高

命庖人羹其骨、以饗客。備

中心賤其客、及辭、取銀還

之。孝高卻之曰、昔有萬里

之行、吾與之耳。豈望見返

哉。竟不受。



富貴。儉。歸。謝。客。賤。

吳、支那周代ノ國名、
揚子江ノ南ニ在ツダ
上國、カミガタ
徐國名、江北ニ在ツダ

練習

吳公子季札出使上國、北過徐君。徐君愛其寶劍、口不

敢言。札心知之。為使事未了。未獻還。至徐。徐君已死。乃解劍掛。徐君塚樹上。拜而去。從者曰。徐君已死。尚誰贈乎。札曰。始吾已心許之矣。豈以其死。背吾心乎。 (日記故事)

五六 叔敖陰德

日記故事

楚孫叔敖為兒時。嘗出游。見兩頭蛇。殺而埋之。及還。憂而不食。母問其故。叔敖泣而對曰。聞見兩頭蛇者死。向者吾見之。恐去母而死無日矣。母曰。蛇今安在。曰。兒恐後人又見。已殺而埋之。母曰。吾聞

莊王、楚王ノ名

令尹、音レイキン、楚國ノ官名、宰相ニアタル

殃、音アツ、慶ノ反對、ワザハヒ

有陰德者必有陽報。汝不死矣。及長。莊王聞其賢。迎為令尹。

陰陽。 出□。 長□。 賢□。 □食。 □死。 □還。

五七 格言

積善之家。必有餘慶。積不善之家。必有餘殃。有陰德者。必有陽報。有隱行者。必有昭名。 (雜書)

五八 加藤戰狀

土屋 弘

京畿大風霾、云云、慶
長元年七月、京都・
伏見地方ニ大地震ガ
アツダ
風霾、大風ガ土沙ヲ空
ニマキアゲテ降ラス
コト

肥誓、ヨリ肥エテ、色
ノ白イコト

襦袢 ムツキ、孩兒ノ
時タイフ

加藤清正、從朝鮮還、小西行長・石田三成、讒之。秀
吉、不許見。乃歸第俟命。時京畿大風霾、地大震。伏
見城頽、壓死數百人。清正曰、「吾寧犯罪、不可坐視。」
乃從卒二百、入省。秀吉與夫人席地而坐。目
清正、呼其幼字曰、「阿虎。」若來何速。清正因前訴冤、
畫地而語、陳其軍勞。秀吉顧夫人曰、「彼肥誓丈夫、
今至自朝鮮、何驚且悴也。」乃命守其門。旦日、秀吉
召見清正、推問海外戰狀。泣下曰、「阿虎襦袢育於
我、乃類我也。」遂愛遇如故。

今川義元、駿河・遠江
ニヨツテキタ
質、音チ、入質
駿府、今ノ静岡市
五月五日、端午ノ節句

五九 將門出將

頼 裏



其寡者、僕怪問故。公曰、「衆者恃勢、其心不一。寡者、

東照公、幼質今川氏、在
于駿府。五月五日、出游
川 安倍河原、觀兒童石戰。
家 一群百五十人、一群倍
康 之。觀者爭就其衆者。公
年甫十歲、在僕背、命就

所謂、イハユル
將門出將、史記ニ、將
門必有將トアル

毛利元就、安藝ノ國主
後、山陽・山陰道ヲ領
地トシテ

懼而專力其勝必矣。果如其言。義元聞之曰。所謂
將門出將者也。

練書 毛利元就、小字松壽。比幼年、詣嚴島神祠。既歸、問從者
曰、汝輩何祈。曰、祈即君公安藝也。松壽曰、汝盍祈吾公天下。夫
願公天下者能公一方。願公一方者能公一國。今願公一國矣。
其所成可知已。聞者奇之。(類聚)

六〇 元就戒子

大槻清崇

元就病將死。召諸子於前。各取箭一條。乃手自糾

爲一束。極力折之。不能斷也。單抽其一條。隨折隨
斷。因戒曰。兄弟猶此箭也。和則相依濟事。不和則



毛利元就

各敗。汝等銘心勿忘。次子
隆景進曰。夫兄弟之爭。必
起於欲。棄欲思義。何不和
之有。元就悅。顧餘子曰。宜

從仲兄之言。

練書

兄弟如左右手也。(後漢書)
兄弟鬩牆。外禦其侮。(詩經)

隆景、元就ノ第三子、
後、小早川氏ヲ嗣グ、
本文ニ次子トアルハ
誤ナル

六一 木村重成

賴 襄

元和、後水尾天皇ノ年
 號
 夏、大阪夏ノ陣ヲサス
 隸、屬スル
 東軍、關東方
 若江、地名、大阪府ニ
 在ル
 挺進、前進ノ意
 隴、音ロウ、小高い處

元和元年夏、大阪謀、再舉、分軍、爲三。重成領一軍、
 眞田幸村等隸之。東照公、潛使人招重成。重成不
 應。既而東軍進自大和河內、并伊直孝、伊達政宗
 等爲先鋒。重成與直孝相拒。若江堤、擊破其前隊。
 重成揮槍挺進。所向皆靡。斬東將山口重信等三
 十餘人。而其兵死傷略盡。乃據隴而息。敵以生兵
 乘之。飯島某勸重成宜還城。重成掉頭不肯。遂死。

纓、音エイ、ヒモ
 無餘、ムスビキルコト
 預、アラカシメ、マヘ
 モツテ

西軍、大阪方ヲサス

之。直孝部兵、取其頭、獻之。東照公、公檢之。冒纓無
 餘、而頭髮有香。公歎惜曰、是預決死也。

六二 幸村力戰

中 村 和



眞田幸村

西軍不利而退。幸村進
 邀伊達政宗軍。政宗兵
 長騎戰。勁騎八百馬上
 發銃、乘煙馳突。所向無
 前。每以此得志於東國。

譽田、地名、大阪府ニ在ル

幸村諳知之。乃引兵上譽田東阜。就四處而布陣焉。令其兵皆脫胃委槍。坐以待指麾。政宗軍稍進。幸村令曰。胃相去數十步。令曰。執槍。敵發銃馳至。遇槍而沮。又令曰。皆起。兵士齊進。縱之。敵兵大潰而走。幸村轉陣南阜。收兵而退。

德川賴宣、家康ノ第十子、紀伊ニ封セラレ

茶白山、大阪城ノ南ニ在リ、今ハ市内ナツタ

修、長イ

大阪既陷。東照公進上茶白山。公子賴宣自後軍馳見。諸軍輜重屬途爭進。賴宣曰。是軍既捷。將舍也。已而城樓煙颯。賴宣咄嗟而進。至茶白山。則諸將賀者大聚。賴宣揮涕曰。大人置兒後軍。使不及事。松平正綱曰。君十四歲矣。前途修遠。不患

變色、怒ルコト

不建功。賴宣變色曰。吾復有十四歲乎。公曰。汝此言。足以當首功也。(鹽谷世弘)

六三 政宗遣使於羅馬

事實文編

貞山公、伊達政宗、仙臺藩ノ祖

台德公、二代將軍德川秀忠

月浦、宮城縣北鹿野村ニ在ル



支倉六右衛門

船手發帆於牡鹿月浦。經六年歸。將監及船手皆

貞山公遣支倉六右衛門。橫澤將監往羅馬。台德公贈皇國名產諸種。為幣物。且付

羅馬法王、耶蘇舊教ノ教主

宛、音エン、サナガラ

死、獨六右無恙。奉呈羅馬法王、回翰及諸物。中有法王畫像。法王贈像、謂六右曰、貴邦人未見余面。則見此畫、誰辨真偽。故畫卿像、副之。知卿像真、則又知我像之非偽矣。畫彩用油、宛有生色。公聞之、稱其知慮云。

回翰。宛有生色。誰辨真偽。不辨真偽。

六四 義家學兵法

賴

裏

源義家、賴義子也。稱八幡太郎。材武善射。從父討

夷、平ゲル
陸奥戰事、前九年ノ役
安倍賴時ヲ征伐シタ

愠、本字ハ愠

後三年役、清原武衡ヲ
征メテ平ゲタ
金澤柵、山形縣仙北郡
金澤村ニ在ル
麿、音アウ、ミナゴロ

覆、伏ニ同シ

安倍貞任、夷之。嘗過藤原賴通第、談陸奥戰事。博士大江匡房在別室。聞之曰、好男子、惜未知兵法。從者微聞之、愠告義家。義家曰、其或然。見匡房出禮之、遂就學焉。後三年役、攻金澤柵、去柵數里、望見雁行亂。曰、是有伏也。縱兵搜索、果獲麿之。謂衆曰、兵法言、鳥亂者伏也。我不學則殆矣。

練習

鳥起者伏也、獸駭者覆也。(孫子)

六五 八幡公

賴

裏

結髮、元服ノコト、年少ノ意

漢文精選帶梯

六八

結髮從軍弓箭雄。八州草木識威風。
白旗不動兵營靜。立馬邊城看亂鴻。

六六 格言

子曰、人無遠慮、必有近憂。(論語)

子曰、有文事者、必有武備。(史記)

六七 義光赴兄急

賴 裏

義家弟義光、稱新羅三郎。亦勇智多技能。是時、為

音、音樂ノコト

足柄山、神奈川縣足柄上郡ニ在リ、箱根山ニツラナル

先君、亡キ父君、賴義ノコト

柵、金澤柵

鎌倉景政、羅五郎ト稱レタ

右兵衛尉、在京師、聞兄軍不利、赴援。義光素好音、嘗學笙於豐原。時元是時、時元已死、其孤子時秋、送義光至足柄山。會月明、義光因吹笙、盡授所學。



訣別、遂至陸奥。義家喜泣曰、吾見汝、猶見先君也。乃與俱進攻柵。固不拔。

義家因會食、設勇怯兩列、以勵戰士。義光從臣腰季方、無日不列勇列也。相模人鎌倉景政挑戰、敵射中其右目。景政不拔箭、而索射己者、終射殺。

六格 言 六七 義光赴兄急

六九

岡松辰、豊後ノ人、甕谷ト號ス、明治十八年卒

太田道灌、名ハ持實、後、髮ヲ削ツテ道灌ト號ス
棗棠、音アイトウ、山吹花ノコト

之。

孤—狐。 訣—決。 怯—法。 挑—桃。 技—枝。

六八 太田道灌

岡松辰

太田道灌、嘗放鷹於野。會雨俄至。過民家借蓑衣。少女折棗棠一枝以進。道灌不擇而去。或謂道灌曰。古歌有言、

七重八重、花波咲計登毛、山吹乃、

實乃一都太仁、無幾曾悲志幾。

蓋邦訓、實乃與蓑衣相通。女子意訴家貧不藏蓑衣也。道灌大愧、自是折節讀書、學和歌、究奧義。後



太田道灌

率兵入下總、夜自山下、遵海而進。衆恐潮未退。道灌驅馬出候潮、須臾還報曰、潮涸矣。衆問其故。曰、古歌

云、

遠久奈利、近久鳴海乃、濱千鳥、

鳴音仁潮乃、滿千遠曾知留。

須臾、音シユエ、シバラクノ意

適聞鳥聲在遠所以知潮涸也遂進兵果如其言。

六 詠 史

大槻清崇

一

村女應門未發辭。

獵歸逢雨乞簔時。

有華無寶君看取。

捧出棣棠黃一枝。

二

才兼文武有斯公。

一激終能學國風。

斥候他年辨潮落。

水禽聲在遠洋中。

一激、一度感激スルコト
國風、和歌ノコト

七〇 鈴木犯禦

土屋 弘

參河、岡崎市ヲサス
弋、音ヨリ、鳥ヲトル
コト
園、音イッ、カゴヘノ
アル庭苑、鳥獸ヲカ
フ所
牙兵、麾下ノ兵士
池籐、音チヂヨ、イケ
ス、魚ヲカフ所

家康在參河有犯禁者二人其一弋于園其一網于濠皆被拘繫牙兵鈴木久三欲諫之未有路乃故矯令取池籐鯉煮而食之他日家康觀於池守者告故家康大怒欲手斬久三久三入張目罵曰噫暗主以禽魚易人惡乎得為天下宰家康大悟拋刀而入遂釋前二人召久三褒之然後語人曰直言之功愈一番槍

七二 信綱捕乳雀

鹽谷世弘

大猷公、三代將軍德川家光

大將軍、德川秀忠

勉強、ツトメテ

譏然、ハツタリト音ノスルコト

窮詰、トヒツメル

首實、白狀スル

大猷公幼時嘗見屋上乳雀命近臣往捕之屋係大將軍燕室衆莫敢往乃推松平信綱曰汝年幼體輕宜往信綱勉強應命夜潛緣屋索之失足墮中庭譏然有聲大將軍提刀夫人執燭而出見信綱詰之對曰臣觀乳雀心欲之竊來捕也大將軍曰否是必有主使者窮詰再四而不告大將軍怒內信綱於巨囊中而緘其口懸之柱曰汝首實即

餒、音シユン、タメノコリ

縱、放ツ、ユルス

目送、見オクリスル

孺子、ヲサナゴヲ呼ブ語

許去信綱自囊中爭之徹旦旦日大將軍出視政



德川家光

夫人憫之私肱囊口以餒啗之復緘口如初日中大將軍入復詰之終不改辭夫人固請而縱之大將軍目送焉謂夫

七三 大猷公英邁

鹽谷世弘

大城、江戸城
祖考、考ハ亡キ父、祖
考ハ亡キ祖父ヲイフ
沐櫛風雨、櫛風沐雨ノ
意

三世 家康・秀忠・家光
ヲサス

唯唯、恐レ入ルコト

大猷公長聰明勇決、恩威並行。初爲將軍、盡召天下侯伯于大城、告之曰、我祖考沐櫛風雨、百戰以定天下。吾年尚少、未嘗親汗馬。卿等欲代宰天下乎、宜各歸藩、以備兵。吾且進旆、以試利鈍焉。皆俯伏無言。伊達政宗前曰、三世德澤深矣。諸侯孰敢不從命。或有異志、政宗請前驅、以討滅之。諸侯唯唯而退。自是、德川氏權勢益定。

漢文精選階梯終

附錄

部首表

漢字象形文字也。有形、有音、有訓。形以象事物、音以表發音、訓以示意義。凡字形、示所屬曰部首。部首數有二百十四類。

字體有左右上下內外之別。在左曰扁、在右曰旁、在上曰冠、在下曰脚、在外曰構、或曰垂、曰繞。

點畫最簡者、始於一點、其複雜者、或至數十畫。凡字典、據點畫檢之者、曰畫引。

乙	一	部 首	一 畫	
イ ツ	テ ユ	イ ツ		音
おつねう		通	稱	
ハ	ル	一	部 首	
ハ ッ	ジ ン	ト ウ	ヒ ヨ ウ	音
はちがしら	にんねう	けいさん けいさん かんむり	にすゐ	通 稱

土	口	三 畫	厂	卜	匚	匕	カ	口	凡	一
ド	コ ウ	カン	ボ ク	ハ ウ	ヒ	リ ヨ ク	カ ン	キ	ベ キ	
くちへん つちへん ごへん	あかんむり	かんねう	ちから	はこがまへ	がんだれ					
士	口	ム	尸	十	匚	夕	刀	又		
レ	コ キ	シ	セ ツ	ジ フ	ケ イ	ハ ウ	ク ウ	イ ウ		
くにがまへ	りつたう	つつみがまへ	かくしがまへ	ふしづくり						

弋	又	么	巾	五	山	尸	小	宀	女	夕	久
ヨク	イン	エウ	キン	コウ	サン	シ	セウ	ベン	チヨ	セキ	チ
	いんねう えんねう		はばへん きんべん		やまへん	しかばね しかばねかんむり		うかんむり	をんまへん		
弓	井	广	干	已	巛	巾	尢	寸	子	大	夕
キウ	キヨウ	ゲン	カン	キ	セン	テウ	イウ	ソン	レ	ダイ	ス
ゆみへん		まだれ							こへん		すゐねう

水	日	无	斤	文	支	戸	心	四 畫	イ	ヨ
							<small>心 小</small>			ヨ ヨ ユ
ボク	エツ	フ	キン	アン	シ	コ	シン		テキ	ケイ
きへん	ひらび		をのつくり	ぶんねう	しねう えだねう	とかんむり	りつじんべん したごころ		ぎやうにんべん	けいがしら
欠	月	日	方	斗	支	手	戈	シ		
ケン	ゲツ	ジツ	ハウ	トウ	ボク	シエ	クワ		サン	
あくび	つきへん	ひちへん	かたへん	とます	ぼくねう	てへん		さんつくり		

瓜	甘	用	足	𠂔	皮	目	矢	示	禾	立
クワ	カン	ヨウ	シヨ	ハツ	ヒ	モク	シ	シ	クワ	リツ
たつへん	たへん	はつがしら	けがは	めへん	やへん	しめすへん	のぎへん	たつへん		
瓦	生	田	𠂔	白	𠂔	𠂔	石	内	穴	
ガツ	セイ	ダン	ダク	ハク	ベイ	ボウ	セキ	シウ	ケツ	
がつかへん	たへん	やまひだれ	さら	ほこへん	いしへん	あなかんむり				

玄	五	止	受	比	氏	水	瓜	爻	片	牛
ゲン	晝	シ	シユ	ヒ	シ	スキ	サウ	カウ	ヘン	ギウ
		とめへん	るまた			さんずゐ さんずゐへん	さうねう つかんむり	かたへん	うしへん	
玉		𠂔	母	毛	气	火	父	𠂔	𠂔	𠂔
ギョク		ガツ	ア	モウ	キ	クワ	フ	サウ	ガ	ケン
たまへん		がつかへん	さがまへ		ひへん れんむ	しやうへん	きばへん	けものへん		

六畫

汗 白 自 肉 耳 而 羽 网 糸 竹

セン キウ シ ニク シ シ ヲ バウ ベキ テク

たけかんむり
いとへん
あみがしら
みみへん
にくづき

舟 舌 至 臣 聿 耒 老 羊 缶 米

シウ セツ シ シン イツ ライ ラウ ヤウ フ ベイ

こめへん
ほとぎへん
ひつじへん
すきへん
らゝすき
ふてつくり
したへん
ふねへん

七畫

西 行 虫 艸 艮

ア カウ キ サウ コン

くさうかう
くさかんむり
むしへん
ゆきがまへ

衣 血 疒 色

イ ケツ コ ショク

とらんむり
ころもへん

赤 豸 豆 言 見

セキ チ トウ ゲン ケン

ごんべん
まめへん
むじなへん

走 貝 豕 谷 角

ソウ バイ シ コク カク

つのへん
あのこへん
かひへん
こがひ
とうねう

非 雨 隶 門 金					采 邑 辰 車 足				
九 畫					八 畫				
ヒ	ウ	タイ	モン	キン	ベン	イフ	シン	シヤ	ソク
			あめかんむり あまかんむり	もんがまへ かむがまへ	かねへん	あしへん	くるまへん	おほざと	のどめへん
青 佳 阜 長					里 酉 疋 辛 身				
八 畫					七 畫				
セイ	スキ	フ	チヤウ		リ	イウ	チヤク	シン	シン
			ふるとり	こざとへん	さとへん	ひとりへん ひよみのとり	しんねう		みへん

高 馬							香 食 風 音 韋 面						
十 畫							九 畫						
カウ	バ						カウ	シヨク	フツ	オン	キ	メン	
	うまへん						しよくへん				なめしがは		
馬 骨							首 飛 頁 韭 革						
七 畫							六 畫						
ヘウ	コツ						シユ	ヒ	ケツ	キウ	カク		
	ほねへん									おほがひ	かはへん		
かみかんむり かみがしら													

鬲 門

レキ トウ

かなへ
（とうがまへ
たたかひがまへ）

鬼 鬯

キ チヤウ

きねう

十一畫

麥 鹵 魚

バク ロ ギョ

ばくねう
うをへん

麻 鹿 鳥

マ ロク テウ

あさかんむり
とりへん

十二畫

黑 黄

コク クワウ

菥 黍

チ ショ

十三畫

鼓 鼈

コ ビン

鼠 鼎

ソ テイ

十四畫

鼻

ビ

齊

セイ

十五畫

齒

シ

はへん

十六畫

龍

リョウ

龜

キ

十七畫

兪

ヤウ

昭和十六年六月六日
 中華學校國語漢文教科書
 文部省檢定濟

昭和十二年十一月一日 印刷
 昭和十二年十二月二十五日 發行
 昭和十二年十二月二十四日 訂正再版印刷
 昭和十二年十二月二十七日 訂正再版發行
 昭和十六年十月二十八日 訂正三版發行



著者

鹽谷 溫

發行者

東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
 中等學校教科書株式會社
 代表者 山本 慶治

印刷者

東京市小石川區久堅町一〇八
 共同印刷株式會社
 代表者 古川 一郎

發行所

東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
 中等學校教科書株式會社

日本出版文化協會會員番號一七、五二二

配給元 東京・神田・淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社

漢文精選階梯附錄終

(略名) 弘道鹽谷漢文階

漢文精選階梯
 定價金三拾五錢

漢文精選階梯

九〇



二十一學級
山五十七席
田吉一

広島大学図書
2000044860


8

21

57

山田志一

一

一 伊達政宗、幼名梵天、生甫五歲、

嘗出遊佛寺、見不動像、指問

近臣曰、此何者、何其顔貌之益也

對曰、不動王、其貌雖猛、其心則

慈濟衆、梵天曰、武將宜如此

捷報

漁撈

乙夜之臨見

賊首

鏗然

金と金がこつた時カタンと
音がしてはねかへる時の音